

本郷学園

中学校・高等学校
同窓会会報

(創刊号)

銀友

発行 本郷学園同窓会事務局

東京都豊島区駒込4-11-1

発行責任者 同窓会会長 里見博康



高校校章



中学校章

校歌

坪内逍遙 作詞
信時 潔 作曲

一、むかしは植え樹の
名どころ染井

とりわけ紅葉の
錦に知らる

今は学園

ここに開けて
苗木を育つ

あわれら

誇りの本郷学園

二、あま柱苗木の
青年われら

つとめば未来に
何えせざらむ

さらば固めよ

処世のもとい
心は剛毅に

あわれら

誇りの本郷学園

御祝辞

御祝辞

本郷学園 中学校
高等学校
同窓会名誉会長
松平頼明
現学園理事長・校長

本校創立五五年を迎え、染井の深い印象を残して送り迎えており
森を果したれた先輩は総計一万五千名に達しています。之等は皆養育され、自然
千をこえています。此の中には勿と本郷らしい「だんすまい」を作
論大東亜戦に、生命をさしげられ
た先輩も多く、各学年にもすでに
な人間性を育てる模範となってい
多いこと、思いをします。そのような
先輩の御冥福を祈り、迎えた五
〇周年を記念して、創立した五〇
周年記念館に同窓会から誠立派
備と認められているのと、学園
な縦横の寄贈があり。又此の一
七四年七月には、本校山岳部の先
輩だけで、登山隊を組み、アラス
カ、マッキンレーに全員が登頂す
るという、画期的偉業を創立五
〇周年の記念として敢行され、同
窓会の意気込みが如く燃えあが
つて来たこの期に、同窓会報「銀
友」が創刊されるはこびになりま
したことは同窓生の皆様は元より
学園全体として、衷心より喜ぶも
のであります。
さて、草分け時代から一七回迄
の先輩が植樹された本校正門から
の銀杏並木は、春は目のさめるよ
うな新緑に、秋はギンナンの実と
黄葉を歩道一杯に散らして、初
めて来た中学校の父兄達の目を引
き、学校の歴史と伝統を心に感じ
させてくれています。その後代々
の先輩が残された「いよッ」植等
は本校の新生や卒業生に本校の
誇りの御祝の言葉といえます。

『御寄稿を謝す』
本郷学園同窓会事務局
今回、同窓会報の発行にあたり、各方面の方々より、御祝辞
御寄稿をいただきました。御多
忙中にもかかわらず、誠に有難う
ございました。始めてのことです
事が特定のものに片寄つたりし
て、金紙面をぎやかに飾るの
に苦勞を致しました。そのため
願ひ、申しあげます。

創刊を祝す

永遠に流れる時と共に、わが本郷学園も五十一年の歳月を経て、同窓会も四十五年という風雪を越え
ました。
同窓会もさうけ並びに旧制
新制各同窓会の御努力により、今
日及び、今後この会報の発行
をみるに誠の喜びに堪えません。
この会報が現在一万五千名の
卒業生の皆さんの手元に暖かく保
存され役立つことを願って止ま
せん。
われわれがこの学園に機を並べ
た数十年の昔を追想すると、当時
の学生生活全体が甘く、なつかし
い一場の絵ものがたりのようで
純真で無心だったそのころのわ
れの心境が、なつかしく思い出
て今後また同窓の友にとつて母
心からお祝いを申し上げます。
現代はかく物質文明のひびき
から人々は素直とした精神生活を
余儀なくされておられます。こ
うした中での同窓の友は、一つの心の
りどころというべきものであり
ます。私利私欲で結ばれたものは
私利私欲によって離れがちなも
のであります。

同窓の友は、幾年経とうと一
十年の歴史を積み、その間多数
の人材を社会の中核として送り出
されておられますが、その同窓会が
今日このシンボルともいえるべき
報を創刊されたことは、今の
発展のためまた学校のため、更に
私達PTAにとつても誠に喜ばし
く、心からお祝いを申し上げます。
校は心の故郷というべきもので
現代はかく物質文明のひびき
から人々は素直とした精神生活を
余儀なくされておられます。こ
うした中での同窓の友は、一つの心の
りどころというべきものであり
ます。私利私欲で結ばれたものは
私利私欲によって離れがちなも
のであります。

同窓会会報の発刊を祝して

本郷学園PTA
会長 岩くら慶光

同窓の友は、幾年経とうと一
十年の歴史を積み、その間多数
の人材を社会の中核として送り出
されておられますが、その同窓会が
今日このシンボルともいえるべき
報を創刊されたことは、今の
発展のためまた学校のため、更に
私達PTAにとつても誠に喜ばし
く、心からお祝いを申し上げます。
校は心の故郷というべきもので
現代はかく物質文明のひびき
から人々は素直とした精神生活を
余儀なくされておられます。こ
うした中での同窓の友は、一つの心の
りどころというべきものであり
ます。私利私欲で結ばれたものは
私利私欲によって離れがちなも
のであります。

創刊を祝して

本郷学園高等学校後援会
会長 仲野 幸一

創立以来半世紀にわたる長い、
そして輝かしい歴史を綴り続けて
来た本郷学園の中より、幾多の
多き逸材として世に送り出された
卒業生の皆様は、母校の栄譽と
繁栄を願いつつ、同窓会が、新会長
を先頭として、今日此処に大いなる
理想をかかげる新聞の発刊にあ
たり、心からの声援と祈りの意を
期待される大なるものがある事
祝したいと存じます。
曲折の多かった過去、又現在は
私学の負うところは、教育の場と
して重要な指導的部門であるこ
とは、云々述べてもありません。
公立私立を問わず、時代の進展
と共に教育の指導要領も変わりつ
ある事は事実であります。先輩
を先頭として、今日此処に大いなる
理想をかかげる新聞の発刊にあ
たり、心からの声援と祈りの意を
期待される大なるものがある事
祝したいと存じます。

教諭 柏谷忠純
 同窓会新聞発行を祝して
 終戦後始めて同窓会新聞が発行されることを知り、心から御祝申し上げます。
 母校は既に創立から五十一年を経過し、五十周年記念事業として記念館を建設し、その中に生徒ホール、図書室や、視聴覚、音楽、美術、などの最新の特別教室を完成し、これから一層積極的な活動に出て校運の進展を期している。我が同窓会も会員一万人を越え、

益々成長しようとしている。同窓会の性質は母校の後援と相互の親睦とが主要なもので、会員相互の利益が目的ではない。
 我が同窓会諸君はよろしく、この点に心を置いて、母校の進展につくされる様に願って止まないものである。
 藤巻健三君(高八回)
 都市対抗野球優勝監督の栄光
 昭和二十八年本郷高校入学生、高校時代から遊撃手トッパツターとして活躍。卒業後、駒沢大

今年、文化勲章受章者と文化功労者が十月二十五日の閣議で了承され、その中に旧教務古学の石田茂作氏が選定されました。石田先生は、本学園の創立時に国語と歴史を担当され、古い卒業生の方々には懐かしいことであるばかりが大変な奮闘とご苦労を存じます。改めて先生の名譽ある受章に対し拍手を送りたいと思っております。
 石田先生は正倉院御物の研究で知られ、文化財保護の分野から功労者に選ばれたのは、先生が始めてだそうす。先生は本年七十九

石田茂作先生(文化功労者)に

今年、文化勲章受章者と文化功労者が十月二十五日の閣議で了承され、その中に旧教務古学の石田茂作氏が選定されました。石田先生は、本学園の創立時に国語と歴史を担当され、古い卒業生の方々には懐かしいことであるばかりが大変な奮闘とご苦労を存じます。改めて先生の名譽ある受章に対し拍手を送りたいと思っております。
 石田先生は正倉院御物の研究で知られ、文化財保護の分野から功労者に選ばれたのは、先生が始めてだそうす。先生は本年七十九

同窓会新聞の配布について
 この同窓会新聞は、卒業生諸氏の親睦を計る目的にも発行が企画され、実現したもので、会報は新会員の同窓生加入を讃えて、新会員には全員配布されますが、諸君高騰の折、卒業生全員に配布することは不可能です。そこで、各回期の卒業生に対しては、従来通りに配布しております。各期の代表者数名に対しては、数十部まとめて配布する方法をとりたいと考えています。是非、各期の責任者の方々は、この会報を同窓生の皆さんに手渡ししながら、懐旧の話を交わされ、より親しい交友を育てられんことを祈願して止みません。また、そのような交友の場をはじめ、そこで生れた新しい情報は是非事務局までお伝え下さい。今後更に内容の充実に加え、配布の適切な方法の採用研究を致したいと思っております。

益々成長しようとしている。同窓会の性質は母校の後援と相互の親睦とが主要なもので、会員相互の利益が目的ではない。
 我が同窓会諸君はよろしく、この点に心を置いて、母校の進展につくされる様に願って止まないものである。
 藤巻健三君(高八回)
 都市対抗野球優勝監督の栄光
 昭和二十八年本郷高校入学生、高校時代から遊撃手トッパツターとして活躍。卒業後、駒沢大

佐々木忠次氏(高三回卒)
 日本芸術祭文部大臣賞授賞
 佐々木氏は昭和二十三年本郷中卒業、昭和二十六年本郷高卒業。在学中より演劇に興味を持ち、文化祭の折、ベニス商人でシヤロクを演じ好評を博した。日本大学芸術学部に進学、卒業後、バレエ界に身を投じ、昭和四十二年三月十九日、チャイコフスキー記念東京バレエ団代表として、ヨーロッパを中心とする海外公演に成功。以後、国内国外を問わずバレエ界の指導者として名を得る。その業績に對し、昭和四十八年の芸術祭選奨

と、前述の、正倉院御物の研究と重なる。奈良博物館館長などの重職をなさる方々、数々の貴重な研究を行ってこられました。
 新聞紙上で既に周知の事柄とは思いますが、昨年あたりから心臓病のため、自宅で寝たり起きたりのご様子。先生の言葉を借りれば、僕は身体が弱く、どこへ行くのも病氣ばかり。ふつうの会社だつたらとくにやめさせられ、いるところを、みんなのおかげでなんとかやってこれた。とのこととす。
 選定された理由を申し述べます
 東京都豊島区池袋二の二〇六一 現住所

雲流るる果てに
 卒業証書を受けずして
 戦後三十年。思えばあの苦悶に満ちた時代は遠いものとなつておりますが、本学園の往時を偲びますと、軍事教練や生徒動員に明けくれた勇々しい時代でもあり、熱血漢の多かった本郷生は率先してあの戦雲の彼方に撃ち出でて、多数の先輩を失いました。改めてその御冥福をお祈り致します。
 お聞きしたところによりますと、当時の本校の中学生で四年、五年、在学中に予科練習生になつたりした方には、卒業式の発行は勿論のこと、卒業証書も受け取られなかったと聞いております。出来なすなら、それらの方々に改めて母校の卒業証書が送られますよう同窓生として尽力を致したいと思ひます。概当者は事務局迄。

北から 南から
 「下谷神社」東京の下町の住人にとつては、懐しい神社の一つである。
 大神(五穀・産業の神)日本武尊の二神を御祭神としている。昔は「正一位下谷稻荷社」と称されたが、明治五年「下谷神社」と改めた。現在の社殿は、昭和九年四月二十九日に落成した古式床の造りで、横山大観画伯の力作で有名と考へております。従来、好意的に各回期の各簿をお送り下さいました同窓生や、同窓会に出席された方々より、多くの情報をお寄せ頂いておりますが、未完成の部分も多く、皆々さまの御協力を切にお願いする次第でございます。出来なすならば、整理の冷房付和室大広間四十五帖を一般に開放して居られる。本会の結婚式、披露宴の他、会議、講演、郷学園同窓会事務局まで、各位の会等の各種集會に利用されて、御知ら本郷の同窓生には、特別の価格で提供して下さるとの事なので、是非御利用下さい。
 母校愛を育て、校友愛を育てる基礎ともなるこの名簿作製に關しまして、各位の絶大な協力と御指導を期してやみません。
 上野駅浅草に向つて徒歩三分

昭和十六年が卒業年度にあたり、いままでもなく、太平洋戦争が始まった年です。
 昭和十六年が卒業年度にあたり、いままでもなく、太平洋戦争が始まった年です。
 昭和十六年が卒業年度にあたり、いままでもなく、太平洋戦争が始まった年です。
 昭和十六年が卒業年度にあたり、いままでもなく、太平洋戦争が始まった年です。

われら同級生
 さわやかな友情を育てて
 一旧制十四回生の集い
 私たちの時代の本郷中学校の校風は、都内随一と謳われたあの広い校庭に象徴されるような大らかな寛容と確かな素朴さがあつた。もちろん、都会の中学生らしいセンシブルな感性もそれぞれ持たせておりました。昭和二十九年四月本郷高校勤務。今でも浅井附近は武蔵野の一隅のおもかげを多分に残してありますが、その当時はもつと武蔵野の自然が鮮やかでした。四季折々の校庭の樹々の色のうつろいが美しく、学園の環境としては全く申し分のないものがあつたと思ひます。私には春の野をさまようような戦争の悲壯感を味わいながらも、この自分の息子の高学歴社会



北から 南から
 「下谷神社」東京の下町の住人にとつては、懐しい神社の一つである。

名簿作製中
 本学園の同窓会名簿は、本学園創立四十周年の際に発行されましたが、その後は製作されておきません。
 そこで、今別名簿の作製にふみきると同時に、今後は三年間隔で製作が回転出来るようにしたいと考へております。従来、好意的に各回期の各簿をお送り下さいました同窓生や、同窓会に出席された方々より、多くの情報をお寄せ頂いておりますが、未完成の部分も多く、皆々さまの御協力を切にお願いする次第でございます。出来なすならば、整理の冷房付和室大広間四十五帖を一般に開放して居られる。本会の結婚式、披露宴の他、会議、講演、郷学園同窓会事務局まで、各位の会等の各種集會に利用されて、御知ら本郷の同窓生には、特別の価格で提供して下さるとの事なので、是非御利用下さい。
 母校愛を育て、校友愛を育てる基礎ともなるこの名簿作製に關しまして、各位の絶大な協力と御指導を期してやみません。
 上野駅浅草に向つて徒歩三分

学校行事計画

左記の日程は、昭和四十九年度本郷高等学校の行事計画ですが、年間の行事は例年これに順ずるもので、御参考の上、各行事に御協力御参加をお願い致します。

- 四月六日 (始業式)
四月八日 (入学式予行)
四月九日 (入学式)
五月一日 (校内競技大会)
五月七日 (情操教育)
六月十九日 (同窓会総会)
七月十一日 (水泳教室)
七月十九日 (終業式)
八月二十日 (夏休)
九月十日 (始業式)
九月十三日 (文化祭)
十月六日 (体育祭)
十月十九日 (中体説明会)
十月下旬 (修学旅行)
十一月十日 (終業式)
十一月二十一日 (冬休み)
一月八日 (始業式)
一月十日 (情操教育)
一月十五日 (入学願書受付)
二月十五日 (出願書不切)
二月十八日 (第一次入学試験)
二月二十一日 (合格発表)
三月一日 (卒業式)
三月十日 (第一次入学試験)
三月二十日 (第二次入学試験)
三月二十日 (終了式)

教育の目標 健全 強厳 勤

(註) 卒業生の諸氏は右の日程を御覧になられて、文化祭、体育祭はその月の(印)を御注意下さい。概当致します。また入学式卒業式なども、大体、同様の曜日を選定して実施しておりますので、五十年もそのようになる予定です。

教育方針と現況について

教頭 野口 泰彦

「沈む太陽を拝み人間になろう」... 七七名、学年別によると一年五七〇名、二年四三〇名、三年四七三〇名、科別では普通科一四一五名、機械科一九九名、デザイン科一三〇名、教員数は校長以下専任教諭五七名、講師三五名、講師の数が比較的多いのは、機械科・デザイン科の実習授業の関係です。入学者の倍率をみると、本年度普通科は四〇〇名の募集に対し約五倍、機械科は一〇〇名募集に対し約七倍、デザイン科は五〇名募集に対し約二倍となつております。入学者の多い区は練馬、板橋、足立、北、豊島区、この区に顕著なことは埼玉県からの入学生が都内とほぼ同等の割合になつて来たこと、大学の進学並びに就職の状況は、進路指導部による三年間での内外実力テストによって、適性のある進路を定める方法が効果して来ております。

受験のすすめ

(入学対策課)

いよいよ高校進学者の志望校選定の時期が迫つて参りました。折しも同窓会紙が創刊されるにあたり、本校の現況を充分認識し、ご親戚知人のご子息にも受験校としてお勧めいただきたく紹介致します。

生徒状況

- 一、在校生 (男、女別)
(男) 二、五〇〇名
(女) 二、五〇〇名
二、普通科
(男) 一、二〇〇名
(女) 一、二〇〇名
三、機械科
(男) 一、五〇〇名
(女) 一、五〇〇名
四、デザイン科
(男) 一、五〇〇名
(女) 一、五〇〇名

小島祥敬

山川宗彦

田村正美

「木を見て森を見る」精神で卒業生諸君へ... 本郷を出て三年目の、のびのびとした気持はもうなくなり、水の中を歩くように自分がおもたかを感じる。あの頃の高揚した気持は下降する。情熱が燃えたあとにはその報いがあつた。過去をどうも、やがて新しい戦いの身持がはじまるのを待つ。

旧学年主任より卒業生へのごとく

編集後記

十一月下旬、やっと原稿が整って... 緑と黄色の錦織りの景観を勇壮に見せ始めております。既にその背丈は、永井体育館の屋根を大きく越えて、本校舎の屋上よりも高く成長致しました。その銀杏並木を見ながら、幾星霜の学園の歴史があったことを知り、数多くの卒業生が、その並木道を通って社会に巣立って行ったことを思ひます。

OB教師のごとく

池田雅彦

高十四回生

後者の評価は明らかに一変しよう。無気力な面が目立ち、これも現代の高校生気質としてしかたのないことなのだろうか。ともあれ、設備も以前よりはるかに立派になり、教師の立場からすれば、今の本郷の方がはるかに授業がやりやすくなり、楽になったようである。このことは、生徒の立場からすればどうなのか、もう一度よく考え直してみたいものである。

同窓生としての連絡も行き届かないことも多く、思うように新聞の紙面にふさわしい記事が深し出すことが出来ません。今後は折にふれて取材すると共に、皆さんの知恵を多お借りしたいと考えております。



文化コース・理科コースをA型(社会重視型)、B型(英語重視型)、C型(理数重視型)と三コースにわけ、更に二年で二単位を履修するコースを設け、各課で十分な学力を身に付け、クラブや部活動で活躍する学生を育成する。また、本校は単独から立高校として稀にみる七〇〇〇坪という広い校地をもち、実に落ち着いた環境にあります。更に昨年は五十周年記念館(冷暖房付)の視察教室、図書室、生徒ホール(他)の完成を、新しい時代の教育にふさわしい施設を備え充実させてきました。教職員的人的構成においても殊にその意欲においては他校に比して劣らぬと自負しております。かように広義の教育環境を学習環境が着々と整備されつつあります。学園生活の主な行事としては、春の新入生歓迎大会・校外授業・水泳教室・夏休みの集団生活